

三河商人道

PART
167

(有)飯田看板店

代表取締役

飯田 朗 君

青年部とは 仕事のすべてを教わった場所



【会社・仕事への思い】

「みなさん、カンバンは！」

「サインづくりは街づくり！」「看板をもっと身近に！」「看板を通して社会貢献したい！」そう語る飯田さん。「岡崎市内の施工数は一番多いかもしれない？」と、でるわ！出るワ！山のような看板施工例。カンバンの話が始めると、もう止まりません。そのひとつひとつに思いが込められていて、看板仕事人としての熱い憶いが、どの作品からも滲み出ていました。

【青年部に入会されたきっかけ】

工事現場で尾野木工所の尾野先輩に紹介を受けたのがきっかけです。入会は平成2年と古く、当時25歳。新人時代には、緊張のあまり会議中の2時間をずっと正座で過ごしたそうです。当時は右も左もわからなかったけど、只々「飯田看板店をなんとか残したい！」という思いだけで頑張り続けられたそうです。

【思い出に残る青年部活動】

26年間も活動していたのでいろいろ思い出は尽きませんが、なかでも一番のはやはり今年の東海ブロック岡崎大会だそうです。2回も担当大会を経験していて、ほかにもいろんな地区のブロック大会に参加しましたが、「ブロック大会の見方がガラッと変わった」とおっしゃいました。「岡崎のメンバーは凄い！」と。

【趣味など】

趣味は、ズバリ「看板の撮り歩き！」

趣味じゃないですよ…とツッコみたくなったのですが、「看板が好きになっちゃった」とのこと。「こないだも面白い看板あったよ」って目がキラキラ。仕事も趣味もごっちゃになるほど看板が大好きだそうです。「カンバンでもっと街を明るく！」と、仕事であったり、コミュニケーションツールであったり、人生そのものなんだそうです。

【青年部とは…】

「青年部で仕事のすべてを教わった」とおっしゃいます。叱ってくれる人がたくさんいた。叱ってくれる人とつながれたことはすごい。叱ってくれたから成長できた。「叱ってくれる人とのつながりを大切に」と後輩にもエールを送っていただきました。現在は「自分にしてもらって嬉しかった事を、後輩の皆にもしてあげたい。」と自ら我々メンバーに激を飛ばしてくれています。そうやってあきんどの皆が繋がっていく事が今はとても嬉しいとの事でした。

最後に「青年部がなかったら、飯田看板店は無くなっていたと思う」とおっしゃいました。我々に進む道を示してくれた気がしました。ありがとうございました。



大変仲良しの謝社長と(台湾高雄交流にて)



←若かりし日の飯田さん



取材担当/
組織活性化委員会



←あきん猫～は、
(有)飯田看板店
の制作です